

介護ウエーブ2011のとりくみ

大阪民医連・介護職部会委員長 矢島 圭



● はじめに

まず「介護ウエーブ2011」の主なとりくみとして、介護ウエーブ推進運動を中心に進めている大阪民医連介護職部会の紹介と、その中で行われた介護職部会全体集会の報告と宣伝行動、現在までの到達点と今後のとりくみについて報告します。

① 大阪民医連介護職部会の発足

2008年の介護ウエーブ推進運動が全国で始まり、その中で大阪でも大きなうねりとなりました。大阪民医連の中に「介護ウエーブ推進委員会」が発足し、そこにたくさんの委員が参加して運動についていろいろと進めてきました。

2009年に、大阪民医連介護ウエーブ推進委員会は通所や訪問等のサービス別に委員会が細分化されていき、その中で介護職部会運営委員会が発足しました。

始まった当初は、介護職部会運営委員会では、介護職員の処遇改善をとりくみの中心に掲げていましたが、今では職員の1人ひとりが、誇りや自信をもち、若い介護職員たちが自主的に行行動ができてきていると思います。

2008年から始まった介護ウエーブの運動では、当初から署名の数を東京の方々と競うような感じで必死に集めていたかと思います。街頭宣伝など、いろいろなことを経験していくうちに、問題の本質などにも、みんなできちんと向き合うようになったと思います。

② 介護職部会の主なとりくみ

介護職部会では、毎年全体集会を行っています。2010年は6月に開催し、90人の職員が参加しました。

夏には大阪の京橋という所で宣伝行動を行っています。毎年行動日は、8月の第1水曜日と決めていて、2010年はたくさんの法人から107人の職員が集まって宣伝行動を行いました。

11月11日の介護の日は、大阪民医連だけではなく、他の民主団体との共闘で署名宣伝活動にとりくみました。2010年は、大阪民医連だけで140人、全体で200人ぐらいだったかと記憶しています。この年の署名は1万3329筆集まりました。

介護職部会全体集会は、毎年6月に行っていて、2011年は11法人から85人が参加しました。宮城厚生福祉会の海和隆樹事務局長を招き、「東日本大震災での介護支援活動から学ぶもの」というテーマで講演をしていただきました。

介護職部会では毎年、大阪民医連独自での行動提起を行っていて、その中で大きく次の3点を掲げて行動しました。

まず、大阪民医連、介護職部会独自での研修や学習会を進めていく。その中で、職員のレベルアップや介護・医療をとりまく情勢などの問題を共有するということ。次に、介護保険制度の改善の署名に積極的にとりくんでいくこと。3つ目は、要求実現のための行政との懇談・交渉などを進めていくということです。

研修については、2010年に大阪民医連で他法人の職員研修、他事業種交換研修を行い、17法人から140人ぐらいの職員が参加しました。

③ 介護ウエーブ署名宣伝活動

2011年の介護ウエーブ署名宣伝活動は、まず3月から5月に実施した介護署名の集約は、1万筆目標でしたが、行動にみんなで参加をした結果、1万2733筆集まり、目標を大きく突破しました。

8月3日の大阪京橋での署名宣伝活動については、大阪全体での活動は行動提起の作成などが間に合わず、中止になりましたが、代わりに「大阪統一介護ウエーブ活動」と銘打って、淀川勤労者厚生協会（以下淀協）、同仁会、医療生協かわち野など、活動できる法人が独自のとりくみで自主的に学習会や署名宣伝活動を行おうということにしました。

9月26日にはヘルスコープおおさかが宣伝行動にとりくみました。

8月3日に行った大阪統一介護ウエーブでは、同仁会は20人ぐらいの職員が参加して、ハンドマイクで訴えて、宣伝活動を行いました。

淀協は宣伝行動後、学習会を行いました。署名については今年度、2011年5月末までで、2333筆集めたということです。

医療生協かわち野では40人の職員が参加して、宣伝行動をし、そのあとで情勢の学習会も行いました。

9月26日のヘルスコープおおさかのとりくみは、ハンドマイクでの宣伝活動でした。

どこの法人でもそうですが、はじめは慣れない職員ばかりで、みんな口がカラカラに乾いて、足も震えるような状況でした。2～3年たった今は、すっかり慣れたもので、みんなしゃべりたくてしょうがないような、そんな状況にまでなっています。

ほかにもたくさんそのような活動をしている法人がありますが、その中の一部を紹介しました。

④ 今後のとりくみ

11月11日の介護の日のとりくみは、2011年で4

年目です。「難波大宣伝行動」ということで、他団体にも呼びかけます。夏にできなかった分、この日は、全勢力をあげてみんなで宣伝活動を行えたらと思っています。

もう1つは、「介護予防・生活支援総合事業」についてですが、大阪民医連独自の陳情書を作成し、2011年12月までに署名活動にとりくみます。要支援1、2で介護保険が使えなくなる「総合事業」を持ち込まないでほしい、そういう内容になっています。

前述のとおり、介護ウエーブの推進運動をはじめはよくわからずにはじめに参加していた職員の中には、今は自分たちが制度改悪をストップできるのだという自覚をもった職員がたくさんいます。そういう職員とともに学習し、2012年の介護保険制度改悪に向けて、一緒にみんなで運動を強化していけたらと思っています。

それから、介護保険制度についての学習の強化が必要です。介護事業所というのは、パートのヘルパーがものすごく多いところです。そういうところにもきちんと、「今後、制度がこのように変わっていく。自分たちは声を上げていかなければいけないのですよ」ということをみんなで共有しながら、学習をきちんと強化する必要があると思います。

そして全国の仲間と共に、この運動を継続させる。やはり民医連ならではのことだと思います。全日本民医連の介護ウエーブニュースで、東京民医連や、北海道民医連などの行動をいろいろ聞くと、別に対抗するわけではないのですが、みんな頑張っているし、「自分たちも頑張らなあかんな」と思います。お互い刺激になって頑張れたらいいのかなと思います。

大きなウエーブを今後も持続させて、「制度改悪STOP」の運動に、これからもとりくんでいきたいと思います。

（本稿は2011年10月3～5日に開催された全日本民医連「2011年度介護・福祉責任者会議」での報告を編集部でまとめたものです）